

名古屋から平和の日をアピールしよう

～河村市長発言に対して抗議します～

河村市長は、4月22日の定例記者会見の中で5月14日の「なごや平和の日」に関する記者からの質問に対し、「祖国のために命を捨てるのは相当高度な道徳的行為であることは間違いない」と述べました。この発言は、祖国のために命を捨てることを讃え、賛美するものにほかなりません。これは、戦前、「お国のために命を捨てることは尊いこと」と教えられ、多くの尊い命が失われた先の大戦を想起させるものです。

さらに河村市長は、それを学校の中で教えることを「一定考えないかん」とも述べています。ここには、子どもの頃から学校教育によって軍国思想に染まり、「お国のために死ぬことが誇らしいこと」と教えられていった軍国教育に対する反省の気持ちが一切見られません。

「祖国のために」国民の命を捨てさせてはならない、という決意を述べたのが日本国憲法であり、「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないようにすることを決意し」という憲法前文の規定にその決意が込められています。

今回の河村市長の一連の発言は、平和憲法の理念に反するとともに、歴史の教訓を全く無視し、行政の長という立場で「祖国のために命を捨てること」を賛美するもの、それを学校教育に持ち込もうとするものであって、決して許されません。

私たちは、河村市長には行政の長たる資格はなく、改めて抗議し、その撤回と謝罪を求めるとともに、直ちに市長の職を辞すべきであると考えます。

そもそも「なごや平和の日」は、名古屋空襲の被害者を慰霊する日を求める高校生の運動が結実したものであり、戦争の犠牲になった方々に「思いを寄せる」気持ちがあるのであれば、行政の長として、「もう二度と、祖国のために命を捨てさせるようなことは決して致しません」という誓いの言葉を述べるべきではないでしょうか。

河村市長の発言は、政府あるいは権力を持つ者の行為によって多数の国民の命を犠牲にしたことに対する反省の気持ちは微塵も見られず、空襲被害者に思いを寄せる高校生たちの思いとは相いれないものです。

私たちは、市民のみなさんがこの河村市長の発言について考え、ともに声をあげることと呼びかけます。

「平和の日」の制定をめざした高校生たちの思いを尊重し、「平和の日」を名古屋から平和を発信する日にしていきましょう。

2024年5月13日
革新市政の会